

日置地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年6月29日（金）19:00～20:00
- 2 場所 日置地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 16名
市出席者 4名（深澤市長、安本地域振興局長、大野経済観光部次長、山本青谷町総合支所長）



4 テーマ 過疎対策（若者定住対策、企業誘致等）について

5 概要

（司会）

青谷町は平成16年に鳥取市と合併してから14年経ち、その間に日置小学校が廃校になった。当時は、廃校になっても活気のある地域だからなんとかかなると思っていたが、今年小学校に入学した子がいなかったということで、現在危機感を感じている。

本日はそうした過疎対策がテーマであり、皆で日置地区再生の道を探っていけたらと思う。

（市長）

市も、人口が減少していることについて非常に危機感を持っていて、その解決策を考え続けている。

青谷町、日置地区が活力のあるまちであり続けるために、色々な事をやっていかねばなら

ない。決め手になる解決策はないが、状況を皆で認識し、地域の持ち味を最大限に生かしていくことが大事である。非常に困難な課題だが、全力で取り組んでいきたい。

(地元)

地域の取組み説明

日置地域の取組み

- 公民館主催の「日置を語る会」などで、住民に数字を示して過疎化、少子化の現状を知ってもらうように努めている。
- 日置地区では、少なくなったとはいえ、製紙業や縫製業などの一部で雇用を担っている。
- 日置地区まちづくり協議会では、健康づくりや様々なコミュニティ活動に取り組んでいる。
- 日置地区公民館では、地域の子を育てる「わし（和紙）の子」事業を展開して、子ども達に地域への愛着を育んだり、地域の大人には「地域の子は地域で育てる」の気持ちを醸成する活動に取り組んでいる。

(司会)

若者定住を考えるこの場に、若者がいないことについて反省している。

帰省した若者に話を聞くと、地元に戻って就職したいという思いはあるが、所得が保障される企業が近辺にないため難しい、と訴える人が多かった。

バイパスができて、山を越えることには抵抗がある。できれば、水も豊富な青谷町内で雇用確保してほしい。

(地元)

年齢層が高いと考え方が消極的になる。若い人になるべく住んでほしいが、そのためには働き場所の確保が大事だと思う。交通インフラができて市街地まで出るのは遠いと感じる。自分にはなかなか良い方法が思いつかないが、地域おこし協力隊の若い方の考えも入れていければいいと思う。

(司会)

昨年度、日置地区に地域おこし協力隊を採用していただいたが、地域になじめなかった。地域に適した人が一人でも入ってくればありがたいと思う。

(地元)

周りを見ても、若い人が少ない。若い人でも地域活動には参加されない方もいる。

将来、自分の子が青谷で就ける仕事があるのか不安に思う。家から通える場所にしっかりした職場が欲しい。

(地元)

女性会で小畑に住んでどう感じるか意見を募ったところ、専門医に行くために旧市街に行かないといけない、通勤時間が長い、帰りが遅くなるため地域の事がわからないという意見があった。

山間部は中心部から外れているため、不都合が起きやすい。何か手立てがないだろうか。

(司会)

2月頃にダイキン工業の研修施設の支配人から、青谷地区から雇用したいので人を出してほしいというありがたい話を聞いた。結果、青谷地区の人を優先で採用してくれた。

青谷活性化の一番の起爆剤は青谷地域に企業誘致をすること、ましてや青谷には豊富な水がある。この点について市の意見を聞きたい。

(市長)

県外に出られた方でも、雇用があれば戻ってきたいと思っている人がいるのは大変ありがたい。しっかり雇用の場を生み出していくことが重要だと思う。

4年前は、雇用の場の確保が市政の課題だったが、現在は人材をいかに確保するかが重要になってきている。そうした中でこれからも、企業誘致に取り組んでいきたいと考えている。青谷地域には工業用水もあり、来年夏までには鳥取西道路が開通するため、企業誘致、工業団地の造成確保の具体的検討を内部で進めている。できるかぎり自宅から近いところに雇用の場を確保することは、これからの時代に重要と考えている。

(経済観光部次長)

私が経済観光部に来た5年前は、三洋ショックで市内に雇用がない状態であり、雇用を作らなければいけない状況だった。その為、三洋跡地を購入し企業誘致をした。加えて、河原IC付近に山手工業団地、鳥取南IC付近に布袋工業団地を作り企業誘致を進めている。山手工業団地については、誘致の目途がたっている。布袋工業団地は分譲面積13ヘクタール強の鳥取市最大規模の工業団地で、現在は30%程の分譲率となっていて、残りの用地も商談中である。

次の工業用地は西地域で確保したいと考えており、現在適地を検討している。その中で、青谷の工業用水は大きな武器となると思っている。布袋工業団地でも豊富な地下水を目指してマルサンアイさんが進出したが、同様の業種をターゲットに、青谷に企業誘致ができるような環境づくりを検討したいと考えているので、そうなった場合は協力をお願いしたい。

(司会)

我々にとって、青谷は西のはずれという意識が強い。市街地まで出るのが大変なため、市街地に工業団地ができて青谷地域の定住にはつながらない。青谷は隅だからいいやと思わないでほしい。

(地元)

地域のためにできることをやっていくのは皆が同じ気持ちだと思う。

持論ではあるが、国や地域を支えているのは産業、経済であると思っている。人口が減っていく中、それをどのようにして補うのかということで、定年引上げ、女性活躍、一億総活躍、外国人労働者受入等様々な手立てで補っていかうとしている。日本経済をきちんと保って、それを国、県、市の政治に反映させていく、逆に市、県の経済がしっかりしていれば国も保っていくという循環が鳥取市においても課題であり、進んできた実感がある。

先ほど、西地域の工業団地の造成等で手を入れていかないといけないという話があった。この点は議会でもはっきり答弁しておられるので、深澤市政には期待している。

(司会)

日置地区の人口の推移を見ると、減少率はどこも高いが、特に早牛の減少が大きい。この点はどう思われるか。

(地元)

息子が県外から帰って来て勤めているが、魅力がないということで出て行ってしまう。結果、地元にも友人がいないという悪循環になる。こうした悪循環が減少率という数字に表れていると思う。ただ、この数字は自分達で対処できる数字だと思っている。

(地元)

少し買物に行くにも不便と思う。旧市内から越してきたが、小学校にバス通学することも衝撃的だったし、交通機関が少ないため車での送迎が必要で、住みづらいとまでは言わないが旧市内と比べると不便は感じることはある。ただ、住んでみるといいところなのを感じられる地域になってほしい。

(司会)

青谷地域にはいいところがたくさんあると思う。ただ、住んでいる人がそれに気付かないのは残念。

(地元)

西因幡にある長尾山は、先祖代々大事にしてきた地域を象徴する山であり、魅力の源泉である。鳥取西道路も開通すればますます地域振興の中で大事な地域になってくると思う。こういう自然風景を大事にして、利用していければと考えている。

ダイキン工業の研修施設周辺でよく若い人がオリエンテーリングをしている。企業にただ来てくれと言うだけでなく、地元からも働きかけてこういった方と地域が交流することで日置地区が自然や文化を大事にしている地域だと思ってもらえれば、良い企業が来てくれるのではないかと思う。

また、日置地区は自然豊かな大事な地域なので、風車計画地の周辺地域の生活環境等に重

大な影響があることを地元は懸念している。区長会長から県や市に支援をお願いしているところだが、地元の切実な思いとして聞いていただきたい。



(司会)

青谷風力発電計画となっているが、実際は睦逢や逢坂に近い場所もある。それがほとんど知らされていないのではないかと。普通の人が見ればこの距離は異常だと思うのでご理解いただきたい。

あと一つ、製紙業の振興は文化財団がおおや和紙工場の指定管理者となっていることもあり、地場産業の振興にはなりにくいいため、別の機会があれば話をしたい。

(市長)

この風力発電事業は環境アセスメントが義務づけられている。景観や生態系の保全についてしっかり検証していく必要があり、それにそって事業が進んでいることと思う。市として意見を申し上げる場では、地元のご要望についてお伝えしていきたい。

製紙業の振興について、因州和紙は鳥取の誇れる伝統産業であり、多くの方にその素晴らしさを伝えていきたいと考えている。

人口減少が進行しており様々な予測が出ているが、数字を見て悲観的になることなく、将来をしっかりと見据え、具体的な取り組みを1つでも2つでも進めていくことが大切である。

日置地区にある多くの可能性、素晴らしさを最大限に生かしてまちづくりを進めていくこ

とで道も開けていくと今日改めて思った。色々な形でご意見等をお寄せいただければと思う。一緒になって鳥取のまちづくりを進めていきたい。

(司会)

行政に頼ることなく、それぞれの地域がもうちょっと活性化を頑張ろうという意見がたくさん出たような気がする。今後もみんなで頑張っていきたいと思う。